明治四十三年十二月二日第三種郵便物認可（毎月一回）
明治二十一年十二月二十八日内務省許可（廿五日發行）

大正五年十一月二十五日發行

婦人衛生雜誌

第三百二十四號

婦人衛生雜誌

第三百二十四號目次

十二月例會通知

來る十二月二日（第一土曜日）午後一時より神田區一ッ橋通り共立女子職業學校内に於て本會例會を開き講話有之候に付き御知友御誘ひ合はせ御來會相成度候也

大正五年十一月

私立大日本婦人衞生會

奉祝立太子禮

めでたき代々のためしさて
壺切の太刀つたへます
今日は生日の足日なり
いざや祝はん諸共に
光さしそふ大御代の
日嗣の御子の御榮は
千秋五百秋かぎりなし
いざや祝はん諸共に

謹告

當事務所は本月より左記の處に移轉致し候に付き向後一切の事務に關しては左記宛御照會有之度候

大正五年十一月

東京市本郷區駒込林町一二番地

私立大日本婦人衛生會事務所

講演

健否如何

莊司秋次郎

本欄には何時も私立大日本婦人衛生會の例會に於ける講演筆記を掲載することになつて居ります。然るに本月は都合がありて、前回の講演筆記を掲載することが出來かねました。これは甚だ遺憾とする所であります。依て甚だ僭越の次第でありまするが、この機會を利用して、本誌の編者たる私が全國會員諸姉の御機嫌伺ひを致し度いと思ふのであります。

敬愛する全國の私立大日本婦人衛生會々員諸姉、諸姉は、今日よく少病、少惱にして、安樂に婦人たる務にいそしみ、疲倦さるゝ事なきや否や、謹で問訊し參らせます。抑もこの婦人衛生會の主趣とする所も、我が大日本帝國の婦人が、凡て身心堅固にして、如何なる地位に在り、如何なる境遇に在り、又如何なる勤に從事さるゝとも、皆その分に安んじ、樂しむで其事にいそしまれむことを冀望するの外に無いことゝ存じます。要するに身心の健全と云ふ事を祈るのであります。

此に於て、果して我々は今健全なりや否や、自ら顧みることが極めて必要な事であらうと思ひます。扨て然らば健全の標準は何處にあるかと云ふ問題になりますが、これに答へることは決して容易でありませぬ。先づ自覺的に、即ち自分自らの感じでは、何處にも苦痛を感ずることなく、不快を覺ゆることもない。全く身心安樂にして、欣然として自己の爲すべき事に勤め得るならば、是は健全であると云は

なければなりますまい。今果して此の如きことを得ば、これ眞に幸福の人と申すべきであります。

然しながら、更に一歩進んで考へて見ますると、我我の自覺は餘り當にならぬものであります。第一自分は今朝全く健康であると思うても、夕には大病人となることがある。否、只今まで健康を誇つてゐた人が瞬く間に屍體となつて其場に横はることさへある。而して後より之を檢査して見れば、其人の健康を誇りつゝあつた時は、既に久しき以前より貴要の血管に變化が起つて居つて、極僅かの事に依ても忽ち危險に陷るべき狀態に在つたことが解かり、或は朝に身心旺盛の時に方つて、既に疾く恐るべき傳染病菌のその身に潜める事を知らずに居つたと云ふやうなことが解るのであります。

次に我々は實際不健全な事が目に見えて居りながら、尚ほ且つ健全らしく思ひなして居る場合が少なくありませぬ。例へば「貴所は近頃御壯健でゐらせられますか」と訊ねると。難有う「御覽の通り至極健全で」と答へる。而して段々談をしてゐる中に、「だが併し、どうも齒が惡いのには閉口致します」などゝ添詞が附加へられるのが通常で、實際左右上下の臼齒に齲齒があつて、少し固い物は食べられぬ。それでも至極健全であると答へて憚らぬのであります。御承知の如く、齒が惡ければ、食物を充分咀嚼することが出來ませぬ。咀嚼が充分でなければ、胃が難儀をし且つ胃内の消化が不充分であります。胃内の消化が充分に行はれなければ、腸に到つて亦消化及び吸收が完全に行はれ難いのみならず、腸を勞し、有害の腐敗醱酵を起して毒物を作り、それも同時に體内に吸收され、陰然種々の害毒を促し、又腐齒そのものゝ腐敗した不潔物が常に嚥下まるゝので益々害をなして居る。消化作用に障碍があれば、勿論身體の榮養は不充分である。のみならず腸内に生じたる前述の毒物が血液の中に吸收されるとすれば、長い間には自然何等かの中毒症狀が起る。身體は羸瘦し、顔面は蒼白で、神經衰弱、「ヒポコンデリー」、

「ヒステリー」などの如き神經病或は精神病の症狀さへも起りかねまじきものであります。然らば齲齒を有して居つて健全だとは言ひ難いのであります。これは單に齲齒の一例を擧げたに過ぎませぬが、何處に缺陷があつても、人體は斯樣に、それからそれへと影響を受けるものであります。體量三十幾貫、六尺ゆたかの關取も、蚤一匹で五體を悶躁く、辨慶さんも脛毛一本を拔かるゝに堪えぬ譬の通り、人體は極めて些細の故障でも全身に響を受けるものでありますから、何處に變化があつても、それが生理的の範圍を超えたものであれば、もはや健全なりとは稱し難いのであります。

是に於て我々は、常に自己の健否如何を省みることが必要である。而かも單に自分の心持だけでは可かぬ。解剖學的に將た生理學的に完全であるか、何處にも異常は無いか、缺陷は無いかと、自分で自分の身體檢査をすることが必要であります。勿論醫師にあらざる人が、醫學的に拔目なき健康診斷をすることは困難しい事に相違ありませぬが、實際頭の頂より、足の爪尖に至るまで、何ぞ異常は無いかと、自分で自身を點檢致しますならば、自覺と常識とに依て健否如何を判じて餘り誤はないのであります。前說の如く、齲齒があり、或は耳鼻等に故障がありながら、自ら健全であると稱する如きは、偶ゝ自己省察の粗漏を示すものでありまして、少しく意を用ゐるならば、必ずその異常たることを知り、引いてはその全身の健康に如何なる影響を及ぼすものであるか、從つて如何に處置すべきかと云ふ正當の考が自然に浮んで來る筈のものであります。

更に一層自己の健康に留意し、健全を期する人は、毎月或は少なくとも一年に二三回體重を測るならば利益があることゝ信じます、

例へば結核の如きものが體內に潛むでゐて、極めて慢性の經過をとり、殆んど何等の自覺症狀もなく、陰然健康を腐蝕して行くことがあります。斯樣な場合にも最も著しく眼につくのは體重の減少でありま

す。これは獨り結核病のみではない、その他の慢性疾患に於ても、體重の増減は、その診斷及び豫後をトする上に重大の意義を有して居るものでありますから、若し時々體重を測つて、それを記録し或は記憶に止め、前後相比較して、その同じきときは安心し、増したる時は健康もそれだけ増したものと喜び、若し減つて居るならば、その原因を求め、原因不明ならば宜しく醫師に就て精密なる診察を乞ふべきであります。此の如くにして案外重大の疾患を早期に發見し、從つて早く適當の處置をするが爲めに、大事に到らずして健康に復する場合は決して少なくないのであります。

その次には時々檢尿及び檢便を行ふことも亦、健康を省察する上に甚だ有益な方法であります。これは顯微鏡と數種の試藥と試驗管とあれば、誰でも普通の檢査は出來るやうなものでありますが、これにも一通りの知識と技術と練習とを要することでありますから、通常の家庭では一寸行はれません。併し懇意の醫師に依賴すれば容易に檢査してもらひませうし、又東京では神田の東京顯微鏡院の如き、その檢査の需めに應ずる所が幾らもありますから、そう云ふ所に依賴しても宜しからうと思ひます。普通の檢査には僅かの料金しか要りませぬ。これに依て何を知るかと云へば、先づ尿の方では蛋白が有るか無いか、糖が有るか無いかと云ふことを調べるのが一番大切であります。即ち蛋白質は主として腎臟炎の場合に尿の中に出て參るものである。又糖分は糖尿病の場合に尿中に現はれるものであります。この腎臟炎及び糖尿病は最初知らずに居る場合が甚だ多い、而して既に危險の症狀が現はれて來て、そこで初めて、餘程久しい前から病氣に罹つてゐたものであると氣がつくことが少なくない。しかも腎臟炎及び糖尿病は、なか／＼多い病氣であります。醫學生などが何氣なしに實習の爲に自分の尿を檢査して、偶然自分が腎臟炎に罹つて居ることを發見するやうな場合は屢々あることで、平素凡ての人が尿を檢査する

ならば、慢性の腎臓炎を發見することは随分多いのであらうと思はれます。それで時々尿を檢査することは有益なことで、若し蛋白や糖などが發見されました時に、早く治療の方法を講じましたならば、速かに治癒し、縦令全治せぬまでも適當の攝生法に依て長く生命を保つことが出來るのであります。
檢便に依ては主として寄生蟲の有無を檢するのであります。即ち十二指腸蟲、條蟲、蛔蟲などが腸の内に居るか居らぬかゞ分かります。斯樣なものが寄生して居るのを知らずに居つて、貧血を來し、それより種々の症狀を發することがあります。これも時々檢便すれば容易に分かることで、若しその蟲の卵が顯微鏡で發見されましたならば直ちに驅除法を講じなければなりませぬ。その他檢尿及び檢便に依て倘ほ種々の病氣を發見し、又これに依て病氣の輕重豫後の如何を判ずることも出來るものでありますから、醫師が診斷治療を行ふには勿論極めて必要な事でありますが、何人と雖も、自分の健康に充分の注意を拂はんとするに於ては、時々檢尿及び檢便することは有益であると思ひます。

扨て斯樣に自己の身體を省察すれば、これで以て全く健康であると安心し、自分は健全なる人であると言ふことが出來るかと申しますと、なか／＼さうは參りませぬ。以上は單に身體の大體の上に於て缺陷が有りはしないかと云ふことを省みたゞけでありまして、その最も重要なる機能即ち腦神經系統の機能如何は未だ省察されなかつたのであります。飛行機を操縦して天空に横行せむとするに方つて、單に器械の外觀上の構造だけを檢査して、略ぼ缺點は無いと見て、輕卒に飛行致しますならば、空の直中に到つて意外に器械の運轉に不都合があつて墜落するやうな事になるでありませう。我々の身體もその通り、外觀上、解剖的及び生理的に健全であるかの如く見え、自分にも健全であるかの如く思はるゝ、而かも一旦世の中の仕事に取掛つて見ると、案外に我他彼此して思ふやうには仕事が出來ない、學校で

の落第は、まだしもであるが、社會に立ての落第は實に慘澹たるものである。故に青年が大望を懷いて世に飛出さむとするときは勿論、平素何事を企つるにも、自己の腦神經系の健否如何、言換へれば吾が精神機能の健全なりや否やを自ら熟慮省察することが肝要であらうと思はれるのであります。

併しこれは前の身體檢査的自己健康診斷よりは一層困難な事であります。學術的に腦及び神經の生理竝に病理、更に心理學的の精細の檢査を行つても往々判斷を誤る位のものでありますから、自分で只冥想的に診斷して正鵠を失はぬと云ふことは期し難いのでありますけれども、今玆に私の希望するのは左樣な六ケしい健康診斷の意味ではありません。只自分で自分を靜に省みるに、安祥として精神に不安を覺ゆるやうなことはないか、例へば頭が重い、或は頭痛がする、從つて氣が鬱ぐ又は焦々する、所謂肝癪が起ると云ふやうな氣分の變化はないか、精神を使ふ仕事に於て容易に疲勞し、萬事に倦み易く、與味を失ふと云ふやうな傾向はないか、大體先づ斯の如き自覺の有無を自ら顧みれば足りると思ひます。精神に異常がありながら、その自覺の無い程のものは、これは全く精神病と稱すべき程度のものであつて、到底自ら如何ともすべからざるものでありますから、玆に申上ぐべき限りではありませぬが、元來婦人には氣分の變化が多い。これは生理的に男子よりも、さういふ傾向が多かるべき筈でありまして、尙ほ氣候の變化等に對しても抵抗力が弱く、之に加ふるに家庭の生活に於ても種々の瑣些な五月蠅い事情が附き纏うて心を苦めることが甚多い。それが皆複雜な又亂雜な精神の刺戟となつて、腦や神經の機能に障碍を來すのであります。これは月の物のある時、或はその前後、又は春から夏に移る季節、或は天候の變化ある時などに婦人の犯罪が多いと云ふ事實に依て明かでありますが、何人も斯樣な場合に多少氣分の變化あるを免れないと云ふ御經驗を有て御出になることゝ信じます。斯樣なわけでありま

から、特に御婦人は、常に自分の現在の精神狀態を觀察して、果して我が腦髓は健全であるか何うかと云ふことを檢し、若し多少でも不健全であると氣がつきましたならば、感情の手綱をしめて、直情徑行を戒愼し、腦及び神經の休養恢復を圖り、更に抵抗力を强めるやうに心掛けなければなるまいと思ひます。

最後に我々が日々自ら省みなければならぬのは、我が德性如何と云ふことであらうと思ひます。德性と申しましても決して健康と離れた事ではありませぬ。眞に健全なる人と云ふには必ず德性も圓滿でなければなりませぬ。世の犯罪人の如きは最も不健全な人々でありますが、我々も若し左樣な境遇、左樣な事情の下に置かれたならば、同じ樣な罪を犯しかねまじき傾向は無いでありませうか。これは一つ自ら内に省みる必要があらうと思ひます。若し左樣の場合に臨みて、克く貪る心を制し、瞋りの心を鎭め、愚痴の情に迷ふことなく、自ら心中の賊を平げて一切の罪惡を征服し得る如き大力の人は、最も剛健なる人でありますが、更に一歩進んで世に善を行はんとする勇氣ある人は、必ず身體も精神も健全な人でなければなりませぬ。生來の智愚賢不肖及び事の大小等は敢て問ふ所ではありませぬ。兎に角現に今、自分は誠實の心を以て居るか、衆の惡を作すことなく、衆の善を行ふの元氣が有るか何うか、自ら檢査する事が必要であらうと思ひます。これが意の如く行はれますならば、これは既に聖人とも稱せらるべき人でありませうが、健全なる人は、少なくとも、この理想に向て進まんとする、或は進み得る力を有して居る筈のものであります。この方面の健康診斷には、古來人間の模範とされて居る幾多の聖賢の言行を鏡として我が心の姿を映して見るのが一番便利であらうと考へられます。而して不健全な所が自覺されます毎に、宗教道德上の神藥を服し或は他の善知識に親しみ近づいて、德性の治療鍛練に努め、日に日に新なる力を得て自己を完成することに努めな

ければなるまいと思ひます。我々が自分の健否如何を自省するときには、先づ右の如き檢査をしなければならぬと思ふのでありますが、此の如き言を申す自分は、此の如く自分の健康狀態を調べます時に、愧しながら何時でも、何れの點に於ても不健康勝で、頭頂より足蹠に至るまで疾病瘡痍に充てるを覺えざるを得ぬ有樣でありますが、今この機會に於て謹んで會員諸姉の御機嫌を伺ひ申上げます。諸姉は、今よく少病少惱にして、安樂に婦人たる務にいそしみ、疲倦さるゝことなきや否や。

叢談

大切なる種性血統

醫學博士　永井潜

近時、人間に於ける遺傳の研究が、尤も大切なる問題と見做さるゝ樣になつて、歐米諸國で、莫大の勞力と時間と費用とを擲つて、家系の穿鑿が行はれた結果として、人間の血統が、如何に重んずべく、愼むべき者であるかを、ひし／＼と感ぜしめる樣な、幾多の大切なる事實が分つて參りました。先づ良い系統の人が、他の良い血統の人に結婚して、良い子孫を設けた例を擧げて見ますと、亞米利加のジョナサン、エドワードなる人の家系には、一九〇〇年の調査によると、其の子孫の總數が、一三九四人あつ

たが、其中二九五人は大學卒業者、一三人は名譽ある學會の會頭、六五人は大學教授、六〇人は醫師で、而かも其多數は名醫として尊敬を受けて居り、七五人は陸海軍の士官、一〇〇人は傳導師及び神學教授、六〇人は名聲ある文士及び記者で、其人々の手によつて、百三十五種の價値多き著書と、十八種の大切なる雜誌が刊行され、又法律家となつた者は、一〇〇人以上で、其の中一人は、米國の副大統領と仰がれ、一人は米國第一の法學者と見做され、三人は米國政府の元老院議官、十數人は知事及び代議士外國公使等となり、三〇人は判事、又一人は世界に名高き太平洋汽船會社の社長であり、是等の人々は、三十三の合衆國の各州、九十二の米國都市、及び諸外國に住み、各方面に活動して、世を利し人を益し、其多數の子孫の中、未だ嘗て一人の犯罪者をも出さなかつたのである。是れこそ眞に郭子儀も遠く及ばぬ子福長者、お家は萬歳萬々歳、芽出度きことの極みと申さなければなりませぬ。

之に反して、悪い恐ろしい系圖の例も、澤山知られて居ります。紐育のチユークなる家族は、一七二〇年生れの、懶惰にして放縱なる一漁夫から始まり、其の五人の娘から、五代を重ぬる間に、總數一二〇〇人の子孫が出來た、其の中三〇〇人は、幼い時に夭死し、殘り九〇〇人中、三一〇人は放浪生活が其の仕事で、彼等が養育院に厄介になつた總ての日子を計上すると、無慮二千三百年の多きに上り、四四〇人は病弱者であり、一三〇人は重罪犯人、六〇人は常習の盜賊、七人は殺人犯を行ひ、就中婦人の子孫の半數は、娼婦であつた。而して此の厄介なる家族を救濟處置する爲に、合衆國政府は、既に二百五十萬圓を費し、今後も猶計るべからざる巨額の金を浪費せなければならぬのであります。

又玆に、如何に血統の選擇を忽せにしてはならぬかを示すべき、大切なる一例があります。亞米利加の南北戰爭の際に、マルチン、カリカツクなる一青年が、氏も素性も分らぬ精神薄弱の一少女と關係して、

其の間に一人の男兒が出來た。其の子孫が、今日迄に四八〇人に及んで居る。其の中一四三人は、著しく精神薄弱で、其外の多くの者の性質は、何れも疑はしい者であつて、一人前の能力を具へて居る者は、僅かに四六人しかない。三六人は私生兒、三三人は性慾生活が異常を呈し、二四人は大酒家、三人は癲癇持ち、八二人は夭死し、三人は重罪を犯し、八人は一生精神病院の厄介となつた。然るに此のマルチン、カリカックが、後に純良なる血統の女子と結婚して、夫から出來た子孫が、四九六人あるが、其中大酒家は僅か二人。又性慾異常者が唯一人あつたのみで、其の他は悉く心身共に健全で、或は醫家として、或は法律家として、或は教育家、或は地主として、皆相當の地位に立つて活動して居る。斯く同一人なるカリカックから出た此の二通の家族は、略同一時と、同一の處とに棲み、其の境遇も亦さして懸け離れた者ではなかつたにも關はらず、斯様な著しい性質上の相違が子孫に顯はれて來たのは、専ら配偶者の種性、血統の選擇の如何による者と申さなければなりませぬ。乃ち、如何に血統を重んじ、種性を尊ぶことが、良い子供を產む爲に、何はさて措き大切なる條件であるかゞ、よくお解りになることゝ信じます。

心のことにせよ、體の有樣にせよ、之を決定すべき遺傳物質なる者があつて、夫れが父母より子に、子より孫に傳はり、善い遺傳物質を具へて居る家系には善い子孫が出來、惡い遺傳物質を有つて居る家筋には屹度惡い子孫が現はれることが、人間の遺傳の研究によつても亦、動植物の遺傳に於けると同じ樣に確められ、且つ又外界の影響は遺傳物質を變化なさぬ者で外界の善惡によつて起された變化は、隨つて後代には遺傳せぬ者であることが明かとなつた以上は、好い子孫を造る爲に何より大切であるのは血統であります。

埃及、印度、希臘、羅馬の如き亦吾が日本の如き舊い文明國では大層門閥を尊んだものでありまして、

希臘の古い物語を歌つたホーマーの詩を讀んで見ますと、名前を申しますのに必ず誰々の子の某と云つて丁度我が邦で、昔戰場で名乘りを擧げる場合に、『遠からん者は音にも聞け、近からん者は眼にも見よ。我こそは誰々何代の後裔何の某…』と其の祖先の名を誇らひ顏に長々と述べ立てたのと全く符合して居ります。是れ全く人間が知らず識らずの間に血統を尊び、門地を重んせねばならぬと云ふことを覺つた爲に起つた良い習慣であります。併し兎角物事は極端に趨りたがるもので、斯くして餘りに門葉を貴んだ結果として、終には階級制度が起りまして結婚の如きは異つた階級の者の間には嚴罰を以て禁止せられ、同じ人間でありながら下の階級にある者は上の階級に立てる者の爲に非道なる壓迫を受けねばならぬ樣になりました。茲に於てか撓みに撓わんだ雪中の竹が何時か雪を拂つて跳ね上る樣に、自由に憧がるゝ人の心が、或は宗教に、或は學術に、或は政治に大革命を惹き起して、其の尊き犧牲の血潮から現代の自覺せる文明が生れたのであります。さてかうなると又極端に自由平等の考にのみ趨りまして、血統や門地等は毫も眼中に置かぬ樣な傾向が日一日と我邦なぞにも盛になり、之を以て新しい文明的思想として得意がる人が頗る多い樣でありますが、是れは又甚だ誤つた考と申さなければなりません。昔の人が門地を尊んだのは良い子孫を產む爲と云ふよりも、寧ろ祖先を崇拜するとか、一門の團結を圖るとか、自分を誇るとか云ふ樣なことが其の原因となつたのでありませうが、併し輓近遺傳學の進步によつて、如何に種性の尊ぶべきか、如何に育ちよりも氏が大切であるかを、知り得たる今日に於ては、斯る漠然たる理由よりも、遙に大切なる根據の下に、一層深く門閥血統を尊重せねばなりませぬ。

男尊女卑の弊風が行はれて居た古い時代では、血統を論ずるにも、單に男子の方にのみ重きを置きまして、女子の血統には何等顧慮することなく、所謂

「腹は借物」として毫も怪まなかつたのであります。さてこそアノ階級制度の八釜しかつた徳川時代に於て氏も素性も卑しい婦人でありながら、容色の美はしかつた爲に、やんごとなき將軍の側室にさへ上り得たのであります。さりながら、遺傳學の進歩した今日に於ては、斯樣な考は斷じて許すべからざる者でありまして、父と母との性質が子に遺傳することは、決して甲乙ないのであります。晩近遺傳學の進歩によつて、女子の位置は科學的基礎の上に非常に高められたのであります、婦人たる者は生殖問題に就いて夫れ丈け又自重する所がなくてはなりません。

以上述べて來た所によつて、畜産家や園藝家が、家畜や果樹花卉の改良を行ふに當りて、良種を選擇し惡種を捨てる樣に、人間を改善するにも亦何はさて措き種性血統に眼を著けねばならぬことが大切です。西洋では馬を使用することが非常に盛んでありまして、馬匹の改良は啻に軍事上のみならず、日常生活の上に大切なる關係を有つて居りますから熱心に之が研究され良い馬が出來て居ります。其の改良には何よりも大切なる者は種子馬の良いのを選ぶことでありまして、世界第一と稱せらるゝプリンスアイリスと云ふ馬の如きは五十萬圓と云ふ驚くべき價格であります。良い種子馬になりますと一回の種子料に數千金を投ずるのも決して稀ではありませぬ。斯く動植物の改良には、何よりも種子が大切であることを知り、之を應用して著々好成績を收めつゝあつたにも關らず、從來人は自分自身の改善を行ひ、永遠の幸福を圖る爲めに、此の大切なる内的條件たる種性血統の問題を疎かにし、徒に外的條件にのみ著目し、衛生によつて虚弱なる人間を强健ならしめ、法律によつて人間の罪惡を根絶やしせんとし、教育によつて愚者を變じて智者たらしめんとして居たのは、非常なる過であつたのである。衛生や法律や教育や凡て此等外的條件は之を施せば其の人一代には多少の效果を擧げることが出來るが、併し之

によつて子孫百代の改善を計ることは到底出來ないのであります。此の目的を遂するには必ず良い血統を選ぶより外に道はないのであります

此の點に着目して挽近の遺傳學の進歩に促されて人間の將來の福祉の爲に、種性を選擇して人間を改善しようと云ふ遠大なる目的を追うて起つたのが、即ち人種改善學なる最新の學問であります。

然らば人間の種性を選擇すべき人種改善學では、如何なる方針によつて其目的を遂するかと申しますと、先づ人間に於ける遺傳の研究を行つて其の間に確實なる法則を見附けて、斯の如き性質は斯の如き遺傳を行ふ者であることを充分明かにせねばなりませぬ。而して此の知識に基づいて、好良なる遺傳をなす種性は成るべく之を保護して之を子孫に傳へる様にし、之に反して忌むべき種性は成るべく其の絶滅を計らなければなりませぬ。此の良種を保護することを積極的人種改善と云ひ、之に對して惡種を剪滅することを消極的人種改善と申します。

消極的人種改善に於ては、例へば白痴者とか常習性の犯罪者とか、忌むべき病とか、凡て人間の幸福を妨げる様な惡き遺傳を行ふ種性が繁殖せぬ様にする**のでありまして、或場合には國家が之に干渉して法**令を設けて之を支配することが出來ます。現に亞米利加の或る州では、精神病結核等其の他忌むべき遺傳性を有つて居る者の間には結婚を禁止し、結婚せんと欲する男女は醫師の證明によつて健全なる心身を有する者でなければ國家が之を承認せぬと云ふ法律を發布して居る處もある。又單に結婚の干渉を以て足れりとせず、進みて或る外科手術を施し、惡質者をして生殖不能に陷らしむる様な思ひ切つた手段も實行されて居ります。

斯く消極的人種改善は、まだ〱比較的其の實行の道がやさしいのであるが、積極的人種改善に至つては、國家と雖も如何とも之に干渉する譯には參りませぬ。唯與る所は教育によつて、遺傳及び人種改善に關する知識が如何に人類の幸福に取つて大切であ

るかを人々をして十分に會得せしめ、之によつて人人各々結婚を行ふに當つて種性の選擇を第一とする樣にする外はありません。

今や歐米各國では、此の大切なる人類の根本問題に著目する有識の士が日一日と多くなりまして、巨額の費用と莫大の勞力とを傾けて此の研究と實行とに腐心して居る有樣であります。然るに我邦に於ては、斯樣な重要問題に耳を傾ける人が未だ甚だ尠いのは實に遺憾千萬であります。

體育及保健方法

醫學博士木下東作述（通俗衛生第二百十八號）

一

木下博士が大阪府衛生會の總會に於て講演せられました概要は左の如くであります。

世の中には健康と云ふことを言ふ人は澤山ありますが、其の「健康」とは何う云ふ事かと云ふことを本當に解釋して居る人は少ないと思ひます。病者にあらざるものは健康體なりと云ふ人がありますが、又一方には健康體と云ふものは非常に丈夫なものでなければならぬと云ふ、或は又健康體と病者との間には一種の階級がある、即ち健康でもない、併し病氣でもないと云ふ階級があると云ふ事を言ふ人があります。私は何うも後の説が正しいやうに考へられます。私は斯んな身體でヒヨロ〳〵して居るが、まだ病氣に罹つたことがないと云ふ人が澤山ある、併ながら、これは詰り今まで病氣に出會したことがないと云ふ證明で、健康の證明ではない、其人は成るべく病氣の來ないやうに逃げて暮したに過ぎませぬ、斯う云ふ人は健康者として論ずることは出來ぬ、さう云ふ人は健康者でもなく、病者でもないと云ふ中間體に位する人と私は考へて居ります。

二

通常の人は健康者になりたいと考へる、何う云ふ方

法を取つたら宜いか、それには種々な方法がある。

人間の生きて居ると云ふことは、種々な工合に人間が働をして居る事で表はれるので、生きて居ることの爲には働くと云ふことが第一である、此の働が充分に澤山出來る人は健康な人間でなければならぬ、腕力でも、勉强でも、何でも總ての事が人一倍出來る、人が一日でする事を自分は半日でして、殘つた半日で他人の二日目の仕事をする、斯う云ふのは非常に健康な者でなければ出來ぬことである、之には身體を鍛えることが必要であります、卽ち身體の總ての働きを强くするのであります。

元來人間の身體と云ふものは使へば使ふだけ良くなるものであつて、使つて惡くなることは滅多にありませぬ。他の機械のやうなものは隨分惡くなる、今玆にある鉛筆でも使つて居る間に段々減つて參ります、又蒸氣の汽罐でも隨分値段の高いものですが、十年も二十年も經つと急行列車には使へなくなる、漸く停車場の中で荷物汽車の連結に使ふ位ゐで、使へば使ふだけ減つて參りますが、使つて殖える、使つて良くなるものはたゞ人間の身體だけである、使へば使ふだけ良くなるのですから、人間の身體を良くすると云ふことは詰り身體を使ふと云ふことであります、さう云ふ方法を名けて我々は體育方法と云つて居りますが、此の體育方法の外にもう一つあります。

三

それは何う云ふ方法かと云へば、人間の身體は働いて居りますが、それだけではいかぬ、他から種々な影響を受ける、此の影響が又我々の身體を使つて居る、働くと云ふことには非常に役に立つので、詰り我々の身體の働く素因を與へるものである、精力を與へる、太陽の光線、或は水の力、或は食物の關係、是等の力を受けて我々は働くのですが、其の外界から參る所の原因、之を種々に變じて、さうして自分の身體を良くする方法を保健方法と申すのであります、故に此の保健法と體育及運動法と云ふことは

自ら趣を異にして居ります。

それで保健の方法と云ふことに就ても、種々な外界の事情に依つて働が違つて來る、例之ば人間の皮膚の働きなどで見ますると、皮膚は我々の身體の一番外にあるから、常に種々なものに當る、日光にも當れば月の光にも當る、或は時に依ると湯も水もかかる、或は寒い風、温い空氣も當る、若し是れが餘りさう云ふ變化を受けないやうに、始終同じ所に居つて一向變化のない狀態に居るとしたら、吾人の皮膚は段々と一程度に限られ、其範圍内しか働かぬ、例之ば、我々溫帶地方の人間が急に熱帶に行くと直ぐ皮膚が剝けて赤なくる、何故なれば是れは慣れて居らぬからですが、二三年して始終慣して居ると終ひに皮膚が丈夫になる、子供が水泳を稽古するのでもさうで、色の白い可愛らしい子供が水泳に行つて居ると、初の年は皮膚が汚くなつてボロ〱と大きく剝けますが、二三年すると終ひに皮膚の剝け方が少くなる。

其他水、温度に對しても、熱い所に長く居り、若くは冷たい所に長く居ることに慣れて居らぬと、熱い所へ參れば病氣を起し、冷たい所へ參れば風邪を引く、殊に熱い所へ行つて又急に冷たい所へ行くと風邪を引きます、然しながら是れも始終熱い所や冷たい所に居つて慣れて來れば決して風邪を引かぬ、近來冷水浴、冷水摩擦が流行つて、一般の人は風邪を引かなくなつた、私は丁度冷水浴をやつたのは、今から十八九年前ですが、其時に初めて三年ばかり冷水浴をやりましたけれども、一向自分では風邪を引かぬと云ふだけで何物も得られぬから、是れでは可かぬと云ふので冬になると冷風浴……風に曝される稽古をすることにしました、寒い風に曝される、是れは最も自然の方法である、出來るだけ朝早く起きて裸體のまゝで寒い風に吹かれるのですが、是れは冷水浴以上の效能がある。

四

ところが夫れだけではまだ不滿足と云ふので、此頃

計畫して居ることですが、温浴と同時に冷水浴を試みるのであります、此方法は水治療法の方で蘇國式浴と云つて居る、即ち風呂に入つては水を浴び、水を浴びては風呂に入りして三四度反覆するのですが、是れが又冷水浴以上效能がある、即ち熱い所から冷い所へ急に行つても風邪を引かぬ稽古をするのです、此蘇格蘭式の水浴は主に神經系統の病人に用ゆる、無論是れは弱い心臓を持つて居る人、生きて居るか死んで居るか分らぬやうな特別な人は考へなければなりませぬが、通常立派に生活して居る人間は堪へ得る。

先づ第一の階級としては冷水摩擦をする、次で冷水浴、次で寒風浴、其次には温寒の水浴と云ふことを試みる、今申した通りに半分病人と云つたやうな人、即ち病人か中間體の者か分らぬ人は突如之をすることは過激ですから、斯う云ふ人は密閉した温かい部屋に於て冷水摩擦をして、段々慣れてから普通の風呂の中で之を行ると云ふ工合に漸進的に行つたら少しも弊害を生ぜぬ、但し私が今茲で保健法と云ふのは主に立派な健康體、普通の人間の健康を増す方法であつて決して病者を論ずる譯でありませぬから。其事を豫めお斷りして置きます。

五

呼吸の方に於ても矢張りさうである、近頃では或は深呼吸法或は腹式呼吸とか云つて種々な呼吸の方法があります、或は謡をうたふと運動になると云つて居る人もある、是れも一の運動の方法として立派な保健方法でありますが、然ながら少し盛に體育を行つて居る人は普通に深呼吸する程度以上に肺臓なり或は腹壁を勞して居りますから、僅か三十分や五十分の深呼吸をしても何も役に立たぬ然らば少し丈夫なものに對しては何う云ふ呼吸法が必要かと云ひますと私は之に就ては議論があります、若し呼吸をする‥‥呼吸を以て自分の身體の攝生法にしようと云ふならば呼吸の運動其物を論ぜず、呼吸すべき所の物質其物を論じなければならぬ、縦ら呼吸しても

冷い外氣に向つてする場合と、室内の空氣に向つてする場合とは非常に違ふ、私の考では普通の深呼吸くらゐで身體が健康になると云ふならば、既に其人は非常に身體の惡い人である、何も運動の出來ぬ人である、深呼吸では一向效能がないと云ふ人こそ人間らしい人と云ふことが出來ると思ふ、本當に身體の良いものは深呼吸ぐらゐやつても一向に役に立たぬことになるものである、眞の呼吸器の保健法として好い例があります、飛行機に乘る人が呼吸の稽古をするには何うするかと云へば、彼の人等は上空へ升ると下層の空氣は非常に熱いですが最も三千米突ほどの高い所へ升ると非常に空氣が冷くなる、さう云ふ所へ上つた場合に、或は雲があつて水分が多いと云ふやうな事がある、其の空氣を吸ふと、今まで熱い空氣を吸うて居たものは必ず風邪を引く、初めて出發したら必ず風邪を引きますから、是れに慣すため飛行機に乘る人は大きな煽風器の前に氷を置いて、氷を通した煽風器の風に向つて口を開いて居る、詰り水分を含んだ冷たい空氣を吸ふのですが、之をやつて置くと幾ら上空に升つても風邪を引かぬ、咽喉が惡くなりませぬ、さう云ふ事は立派な呼吸の保健法から出來る譯で、さうしたら少々濕氣のあるものでも害を受けぬやうになります。

又近來は呼吸器病の療法として病氣の人間を外へ出す、或は夜間戸を閉めない、或は戸外で以て飯を喰はす、充分空氣の良い所に置くと結核が治る、殊に高山の氣候が良いと云つて喧しく云つて居りますが、夫も同じ理由で、健康體を良くするみならず、病氣を治くする效能があるからであります、私は深呼吸をして見ようと云ふ人があつたら、若し其人が健康な人であれば餘りそんな小さい事をせずに、戸外へ出て成るべく冷い空氣を吸ひなさいと云ふことを勸めたい、最早太陽が出てから二時間、三時間になると冷い空氣はありませぬが、朝早くか夜遲くかに戸外へ出て冷い空氣で充分に嗽ひをするやうにしたら、少々の事で咽喉が惡くなるやうなことはな

くなります。

六

次に精神的の關係からも強くなることが出來ます、近來神經衰弱と云つて神經は弱るものと考へて居る人が多い、若い人のやる病氣と云ふと大抵は神經衰弱で、是れは皆若者の病氣、殊に文明に伴ふ一種妙な病氣と考へられる、是れが非常に多い、斯の神經衰弱になると云ふことは神經を使ひ過ぎたからかと云ふと、決してさうでない、或は神經衰弱になる者は非常な勉強家かと云ふと決してさうでもない、寧ろ心配家か執著心忍耐心の乏しい氣の變り易い人に多い。如何に使用しても規則正しくしたら頭腦はさう〳〵弱るものでない、頭腦は使へば使ふほどハツキリするものです、詰り神經衰弱になるのは神經を虐待したのであります、神經衰弱は近來の學說に依りますると、神經の調子が狂つて居ると云ふのですから、極く僅かな事に心配して大きな事には反つてボンヤリするのは、是れは頭腦が普通でない證據であります。

それで非常に神經の調子の狂つて居る者、神經の興奮性の正しくない者、不規則なる神經の興奮性を持つて居る者を神經衰弱と云ふことになつて居りますが、是等は全く強健法に依らざる神經使用の結果であります、頭腦や神經はウンと使へば使ふだけ宜くなるものであつて、正しく使つたら決して惡くなるものでない、昔の漢學の先生は隨分勉強はするが決して神經衰弱に罹つた例を聞きませぬが、是れは隨分頭腦を使つて居るに拘はらず極めて規則正しく眞面目に充分注意心を以て本を讀んで居るからである、今の人でも本當に本を讀んだり物を考へたりすれば宜いが、其の傍ら同時に妙なことを考へるから却つて頭腦が惡くなる、是等は大に考へなければならぬ。

七

それから人間の消化作用にしても、百姓のやうな盛に勞働をする人は隨分不消化と考へられるものを喰

つても消化し果せる、之に反して餘り勞働をせぬ人は牛肉のロースを喰つても胸にもたれて何うも濃厚いと云ふ、詰りさう云ふ方面にしても、日常餘り軟かい物ばかりを喰べると、身體は段々弱りますから、時々は硬い物を喰べて消化力を強めて置かねば可かぬ。又同じ食物でも其の喰べる時の考に依つて消化の仕方が違ひます、美味いと思つて喰べると消化が早い、是れは美味いと思つて喰べると消化液も餘計出まするし、腹の運動も遙に盛になつて來るから其の爲に能く消化するのであります、さう云ふ事もある以上は腸胃の働く範圍を充分强く廣くする必要があります、無論それには腸胃を一定の方法により鍛錬すると同時に精神の作用を丈夫にしなければならぬのである。

八

要するに保健法と云ふものは、從來あるものは空氣に關するもの、呼吸器に關するもの、消化に關するもの、精神に關するもの、此の四ツが主なもので、病氣のもの若くは病氣の恢復期のものには、理學的療法、食餌療法、水治療法、電氣療法などをやつて居りますが、無病の人々も大體之を應用して、一方に於て我々の持つて居る所の機能例之ば筋肉の機能消化の機能、神經の機能、分泌の機能等を充分に活動させる、之に就ては種々水に就てやる仕事、陸上に就てやる仕事、もう少し世の中が開けたら追ッつけ空中で盛に運動する必要も起つて參ると思ひますが、さう云ふ方面に於て種々な方法を以て人身を強健にするのが體育法である。

此事は疾の昔希臘に於て盛にやりました、昔希臘の人間は歐羅巴に於て覇權を握つて居つた、歐洲で一番強いものは希臘と云はれて居りましたが、其の原因は保健法及び體育を盛に行つたからである、希臘は國の教育として…今の普通教育として立派な學校を建てましたが、其所で主に體育をやつた、一部分に於て學者が講釋をする以外には、全部子供から大人に至るまでを三ツに分けて運動をさせる、相撲

をさせる、挌鬪をさせる、走らせる、馬術をやらせる、或は飛ッこをさせる、一方に於ては又夜間裸體にする、或は温かい湯の部屋、冷い水の部屋に於て、或は砂を塗らせたりして皮膚を強める、或は脂を塗つて肌を強める、此の當時は實に希臘が全歐羅巴を統一して居つた時代である、夫が間もなく運動が邪道に蹈込んだ爲め國家が滅亡に歸したのである。

又近來世の中では、文明と云ふものは人間の身體を非常に弱らすと云ひますが、此の體育を行つて居る方の人間と云ふものは皆強くなつて居ります、其の證據としては有名なオリンピックの競技があつて、是れが四年目に一度歐羅巴の大都で行はれて居りますが、其の得ました所の結果は年々の會毎に其の前年のより良い成績を得て居る、文明は人間の身體を或方面では惡くするが、體育をやつて居る文明人は決してさう云ふ憂のない事を表はして居る。

九

又其他に保健法と云ふのは、今申すやうな工合で、外界から受ける所の刺戟に對して抵抗をすると云ふことですが、是等も都會の人より地方の人が最も保健法に適つて居ることは明かである、天然自然、空氣、山、水に接して居るものは長壽が出來るのであります、それだけ健康になり得るのであります、

私は殊に都會の人に對しては、是れから特別なる健康法を講じなければならぬと思つて居ります、尤も今迄申した保健體育法は或は一歩進んで居るが爲め、實際の應用の時はもつと容易い方法から追々始めて行つたら、終に斯う云ふ方法が適當する時期に達することは困難でないと思ひます、今茲に云ふ保健法は中位の身體の人に就てゞあつて、一般に此の方法で宜いと云ふことは云へませぬ、即ち各自に當嵌つた方法を選んで、それに就て保健法、體育法を講ずるより新しい方法はない、即ち自己に就て充分適切なる保健法、體育法を行ふことが目下の急務である、之に就てはもう少し眼の開いた所の醫者、藥を與へる如くに其人に適當な運動方法を處方し得る

醫者が出來たら、比較的容易に成功することゝ思ひますが、何れ近き將來に於て現出することゝ思ひます。

女子の體育と自覺

東京女子高等師範學校長中川謙二郎述
（養生の栞第百四十八號）

中川東京女子高等師範學校長は、女子の體育と自覺と云ふことに就て、日本橋區衛生協會の機關誌「養生の栞」上に、極めて穩健な意見を述べられて居ります、その要點を摘錄して御紹介致します。

次代の國民を生むべき母

國民の半數を占むる女子は、時代の國民の母であるから、その身體を重んぜねばなりませぬが、未來の國民の母たる女子の身體は現在どうであるか。女子自らはどう思つてゐるか、又世間一般の空氣として、女子の身體について相當の價値を認めてゐるかどうか、極一般には尊重しないのではなからうかと思はれます。

女子の自覺と世間一般の空氣

學校に於いて女子に體育を施しても、一般に空氣として女子の體育を輕んずる傾向があるやうでは、體力の增進を望むことは出來ないと思ひます。生む者が弱ければ生れる者の弱いのはいふ迄もないことですから、世人一般はます／＼注意を加へ、女子に於ても、身體に關して自覺をし、自重せしむるやうに、學校と家庭と雙方から仕向けて行かなければならぬと考へます。

體育に關する讀物が不足

一般の空氣を作り、銘々の自覺を促すといふ意味に於いて、體育に關する女子の讀物が不充分と考へます。敎師や女生徒の讀物はあるでせうが、その樣な意味でなく、極一般の女子に適した通俗平易な讀物を講談同樣に弘めることが肝要ではないでせうか。

幼兒の保護を充分にせよ

次に幼兒期すなはち幼稚園に通ふ時代の子供は、家内に居ては充分の遊びが出來ず、或は大人の邪魔をする、といつて戸外に出て遊べば、しば〲危險なことに出會ふのですが、この時期は最も大切で、子供は生れてはじめて家の外で他の子供と交際をするのであります。けれども多くの家庭ではこの點の注意が充分でないやうに思ひます。子供を外へ出す時には、身體なり精神なりについて充分の保護を加へることが必要でせう。實行することは中々困難でせうが、保護の道を講せねばならぬと思ひます。

子供を人形の如く取扱ふ弊

都會の中流以上の家庭では、この幼兒期の子供を苦しめ、その發育を妨げることをよく見受けます。それは幼兒を人形の如く取扱ふことであります。立派な衣服を著飾らせて、手足の自由の利かぬやうにして居ります。加之に顏に赤いものや白いものを塗り立てゝ、まるで役者のやうな風です、子供を玩具の如く取扱ふことは早く改めたいものです。

躾けをするのは可か否か

この時期の幼兒について、世の中に二つの考へがあるやうです即ち幼兒の時代に身體發育の基を作るのであるから、成るべく手を付けず、自然に任せ、好きな樣にさせるのが一番よいといふ考へと、一方には、少し物事を辨別へるやうになれば、根本的に敎へ込まねばならぬといふ考へがあるやうです。しかし、さう極端に走らなくとも、ある程度まで規律的の生活に慣らすことは、幼兒期に於いて出來るかと思ひます。睡眠や食事などを自由にさせず或は程度に於いて躾をした方がよいのではなからうか。

小學時代から手足を働かせ

空氣が惡いことなど種々ありませうが、この時期の子供に手足を使はせることが少ないためであらうと思ひます。學校の往復はなるべく歩かせ、又手を使ふことを奬勵したいものです。通學の際などには乘物をやめて、なるべく歩くことを奬めたい。僅かな距離にも拘らず、供をつれて電車で通學するやうで

は困ると思ひます。

注意せねばならぬ娘時代

それから女子が小學校を卒業して、結婚する二十歳ごろまでは、幼稚園時代のやうに、非常に大切な時期で、この時期に大多數のものは完全な女子となるのであります。隨つて學校に於いても、家庭に於ても、又本人自らも餘程注意をしなければ、身體を害ふことが少くありませぬ。そしてこの期になると、都會の女子は手足を勞することが益々少くなります。本人はさまで厭がらぬけれども、家庭がさう仕向けるのです。上は下に大なる影響を與へて、歩くことを賤しみ、俥で學校に通ふ人は幸福と思はれる樣になる。然し體育の上から申せば不幸福なこと〻考へます。

娘に身分の高下はない筈

これは他にも原因があるでせうが、一方には今申したこと〻、それから服裝を氣にかけるからであります。學校で絹物を禁ずると木綿でも眼に著くやうな派手な物を著て來るやうになります。その衣服を汚しては困るといふので、手足を働かすことが益々少くなります。家には社會的の位地があるとしても、その娘には、少くも生徒としては社會上の地位はない筈です。なるべく粗末な衣服を著て手足を充分に働かすことにしたいものです。

美人の標準を改めたい

妙齡の女子が最も苦心するのは、どんな顏が一番美しいと思はれ、どんな衣服がよいと思はれるかといふことであります。

そこで女子の體育のために、一般の男子が歡迎する美人の標準をば、體格を主として定めたいと思ひます。若い男子は、たゞ顏の美しい女子を望むやうですが、さうでなくて、壯健な、生理上申し分のない女子を歡迎し、健康といふことを結婚の主要な條件とする樣にしたいものです。世間で立派な婦人といふのは、身體も強健なものでなくてはならぬといふことが、一般によく分り、又若い女子の間にもよく

了解されるやうにしたいと思ひます。一般の空氣がさうなれば、女子の體格は自づと進んで行きませう。

育兒

兒童の娯樂問題

ドクトル　三田谷啓

兒童の娯樂は多くある。其うちで注意を要するのは、大人本位で設けられた娯樂を小兒に利用することである。日本の社會は娯樂機關に對し、成人と小兒とに生ずる利害關係の區別がわからぬやうである。社會ばかりではない。兒童の父兄が其邊のことを辨へて居らぬ。殊に知識階級の人々が無頓著であるから恐入る。

成人の娯樂機關を兒童にそのまゝ利用すると、身體と精神との方面に危害を招く場合が多い。例へば今日我國で行はれて居る活動寫眞、演劇、寄席等は何れも成人を本位にしたものである。かう云ふ所へ幼少のこどもを連れて行くと、身體的には空氣の不潔、傳染病の感染、身體の疲勞、運動の不足等を起し易く、精神的には神經疲勞、睡眠不足、不良の精神的感作を受けるのである。

我等は學校兒童が大人向きの活動寫眞館に入り、又は寄席や、劇場へ行つて居ることを見て、兒童を人工的に惡くし、學校教師の協力をする代りに、學校教育の破壞をなしつゝあるものと解釋して居る。しかし日本では學校兒童どころか乳兒が芝居を見に行つたり、赤ン坊が活動寫眞館に出入して居るのである。これは確かに兒童虐待である。此種の方法で兒童を虐待するものは、帝劇等へ出入する人のうちにも大分あるやうである。活動館等へ出入する者には、尚ほ多いのである。斯かる兒童虐待の方法は他

の文明國では見られぬと余は信じて居る。社會や學校が何故兒童の娛樂問題に就て冷淡なのかと不審に堪へない。何故に活動寫眞の恩澤を受けることを努めずして、害惡を得るがまゝに放任し、且傍觀して居るのか。この邊を見ると、日本人は兒童を愛するのか、愛せぬのかわからぬ。娛樂は兒童の精神生活に必要のものである。故に娛樂の善用を謀ることは極めて大切である。今試に活動寫眞に關して余の改良法を擧げると次の如きものである。

一、兒童專門の活動寫眞館を設立すること。

一、成人用の活動寫眞館へ兒童の入場を禁止すること。

一、兒童活動寫眞館は夜間開場せざること。

一、兒童活動寫眞館用の「フイルム」は地理、歷史、動・植物、軍事、お伽、風俗、習慣、農工商等に關するものたること。

一、兒童活動寫眞館は一定時に限り、學校の希望により開場を許可し、教師は生徒を連れ行きて、寫眞を教材に供すること。

一、教育團體は活動寫眞機及び適當の「フイルム」を製造又は購求しこれを貸出すやうにすること。

一、兒童活動寫眞館は「フイルム」の選定以外、衛生上充分の注意をなすこと。

一、「フイルム」の檢閲は、教育的及び衛生的見地よりすること。

一、社會、團體、個人は宜しく兒童活動寫眞館の爲めに補助すること。

其他のものも成るべく善用することが大切である。余は社會と家庭とが適當の兒童娛樂を造るために盡力するに至らんことを希望するものである。（三田谷啓）

（活動寫眞に關する調査、教育の實際、大正五年九、十月號）

口腔衛生お伽噺

本篇は米國インヂアナ州の小學校六年生用の國語讀本中

に編入せらるべき教課で、先頃の一米國雜誌に載つてゐたものを石井氏が翻譯して、齒科學報上に口腔衞生資料として出されたるものであります。

(一) 無題

何處の國とも解りませんが、トレモントといふ小さな田舍町に、名をパトリシアと呼ぶ小さな女兒が住んでゐました。そして其町にたつた一人の齒醫者が居りまして、隨分上手な人でありました。パトリシアは此齒醫者が好きでしたが小さな女の子や男の子に有勝ちな、あの診察椅子の上へ坐らせられる時には、逃出したくなる程嫌になりました。學校のお友達は皆パトリシアを可愛がつて、隨分チヤホヤしましたが、齒が醜いので美しい女の兒だとは思ひませんでした、でパトリシアは毎月齒醫者の處へ通ひましたが、多勢の人達が行つてゐるので、いつも永い間待たされました。或日の事、彼女は近所の森へ出掛けて、ジエーン、ブラックのやうな綺麗な齒が欲しいと考へると、急に悲しくなつて來ました。そしてシク／＼泣いてゐますと、何處からともなくこんな聲が耳に入りました。

小さないゝお子お默りよ
毎日綺麗に齒の掃除
すればやんがて美しく
蟲齒のおそれも無くならう。

彼女は吃驚して、四邊を見廻しますと小さな妖精が立つてゐました。夢では無いかと驚きながら、パトリシアは返事をしました。

どうもありがたう妖精さん
やつて見ませう、此お齒が
やんがて綺麗になるやうに。

パトリシアは此妖精といろ／＼のお話をして、もつと森にゐたいと思ひましたが、妖精は直ぐに何處かへ消えて仕舞ひました。

彼女は出來るだけ迅く驅けて家へ歸り、一生懸命に出來る丈け丁寧に齒を掃除し磨きますと、間もなく雪のやうに白い綺麗な齒となりました。そして大き

くなつて國中で、一番美しい歯を持つてゐるといふので、立派な褒美を貰ひました。

（二）ポリー、メー

チエスターの子供達は、土曜日の朝いつもよりも早く起き出でましたが、それは今日此家へ來る從姉を、停車場へ迎へに行くためであります。從姉といふのはポリー、メーといふ名の女の子で、ユタのスプリングフィールドから、やつて來るのでした。

チエスターの子供達といふのは、皆で三人で、西ヴァジニアのフェーアモントに住んでゐるので、一番年長のチャールスが十四歳、次がルシーといつて十二歳、一番末の子は八歳で名はグレースと申します。ところで從弟のポリーは、十二歳でありました。

三人が揃つて朝飯をたべに、食堂へ這入つて行きますと、チエスターの奥様は、皆歯を磨いて來たかと尋ねました、彼等は「イ、エ」と答へました。

此事はチエスターの奥様が、皆に肯かせる事にしてある定めでありますが、兎角子供達はそれを嫌つて、いつも言はれてからでないと、歯を磨きませんでした。そして今朝は「もう時間がありません」と言ひ拔けを致しました。

併し皆が停車場へ行きますと、チエスターの奥様は「ポリーが來たら毎朝皆が歯を磨くのですよ」と言つて聞かせました。けれども彼等は答へる間がありませんでした。汽車が向ふからやつて來たのでしたから。

ポリーは眞先に踏段から降りて來ました。鳶色の眼差、鳶色の頭髪、衣服まで鳶色のものを著てゐました。從兄弟達は可愛らしい子だと思ひました。

彼等は終日遊んで夜になつて遊び疲れて寢牀へ入りました。

翌朝になつても彼等は歯を磨かうとしませんするとポリーが「假託けてやりませう」と言ふので、皆が如何して假託けるのかと尋ねますと。

「皆歯が赤い絹箱の中の眞珠の玉だと思ひませう、眞珠は磨かなければ綺麗でないでせう、歯

もさうなんですつて」
と答へました。皆此の考を面白がつてそれからは旅朝第一に歯を磨く事を心懸けました。
ポリーは其外いろ／＼の假託を、皆に話して聞かせ其仕事を助けました。
翌くる日、彼女は自分の家へ歸つて行きましたが、いづれも別れを惜んで悲しがりました。
其後チエスターの子供達が、歯醫者へ行きますと、先生が「みんないゝ歯だ」と言はれました。
其理由は「清掃せる歯は決して齲蝕せず」で、子供達の歯はポリーのお蔭で悉く綺麗だつたからでした。

(三) 小兵士トムミー

或る處にトムミーといふ小さな子供がありました。
或日の事トムミーが、お友達と遊んで居りますと、彼の祖父さんが家へやつて來ましたので、直ぐに祖父さんに飛付いて、お話をして下さいとせがみました。
ところが二三日前トムミーのお母アさんは、祖父さんに「どうもトムミーは歯を磨かないので困ります」といつておきました。
そこで祖父さんはトムミーに、大變面白いお話をしてあげやうと言ふと、トムミーは喜んで祖父さんの膝の上へ乗つて耳を傾けました。祖父さんはやをら口を開いて、
「むかし／＼或る處に大戰爭があつて、兩方の兵隊さんが戰ひました。ところが一方の兵隊さんは、歯が皆眞珠のやうにキラ／＼してゐましたが、一方の兵隊は歯を掃除する事を怠つて皆汚い歯でした。いよ／＼戰爭が始まりますと、綺麗な歯の方の兵隊は、歯の汚い敵を打敗つて大勝利を獲ました」
と申しました。
其日からといふものはトムミーは、いつも一日に三度づゝ歯を磨くやうになりました。そして大きくなつたら兵隊になるのだとお友達に言ひました。

(四) 無題

きれいなお手と、きれいなお顏
きれいな著物に、きれいなお部屋
きれいな芝生に、きれいなお爪
みんな氣持はよいけれど
きれいなお齒にはかなはない。

家庭衞生

活動寫眞「コレラ」の傳播と豫防

大阪府衞生會は「コレラ」豫防の爲め高安醫學博士に立案を囑し、寺田清四郎氏の手によりて新に活動寫眞を製作せしめたる由なるが、その說明の概要は左の如しと。

第一　コツホ博士の實驗室

（博士は標本を作り顯微鏡檢査を行ふ）

元來「コレラ」病は印度で古くからあつたもので、それが丁度今から百年以前全世界に廣がりまして以來、今日まで六回あまりも大々的流行を致しました、其病原に就ては久しく疑問でありましたが、明治十六年獨逸の大醫コッホ博士がわざ／＼印度まで出張して研究の結果、「コンマ」菌と云ふ一種の微菌が原因であることが明かになりました、この「コンマ」菌は其長さが曲尺の一分を萬に割つたより尚ずつと短かい位ですから、千倍位の顯微鏡では針の耳よりずつと小さくしか見えませぬ。今博士は此菌の標本を造り鏡下に檢査をして居られます

第二　「コレラ」の病原「コンマ」菌

（「コンマ」菌の一部漸々變化して大きくなり遂に鬼王の形をせる「コンマ」菌王となる）

「コレラ」の病原たる「コンマ」菌を顯微鏡で見ますれば、この樣に「コンマ」即ち片假名の「ノ」の字に似て居りますが、これが人間の口から體內に入り込み、腸の中で害を起し、盛に下痢や吐瀉を來すもので、

短い時間の中に生命を奪ふ、そこで昔は之を「コロリ」と申して非常に恐れたものです。澤山に居ります「コンマ」菌の中で特に大きな菌が現はれ、それが暫くするうち魔王の姿となります。是が「コンマ」菌王です。

第三　コツホ博士と「コレラ」菌王　この對話

「コレラ」菌王「先生、御機嫌宜しう」

コツホ博士「貴樣を初めて印度で見付けてから今年で丁度三十三年になるが、もういゝ加減にくたばつていゝではないか」

菌「いやどうも恐れ入ります、然し先生、何も僕が好き好んでやつて來るのではありませんが。人間と云ふ大馬鹿者がつまり僕を呼び出すのです、先生の御自慢なさる學問にどの位の力があるか知らぬが。公衆に理解する能力がなければ駄目です、又いくら公衆に理解力があつても、これを實行する上に於て、個人の徳義心が之に伴はなければ其效力は薄弱となりますよ」

博「オイ〳〵左樣我々の仲間を侮辱すると頭から昇汞水をふりかけるよ」

菌「そいつは閉口だ」

博「然し此三十三年間に於ける人智の發達、殊に學問の進歩は非常なもので、貴樣等が考へて居るよりずつと人間が賢こくなつて居るから、五十年百年以前に貴樣達が天下を横行した時と同じ樣に思つて居ると、あてがちがふよ」

菌「處がネ、學者と云ふものは小つぽけな試驗室の窓から世間を見て居ますからネ、世の中ではいつでも二二ンが四となるに極まつては居ませんよ、時には二二ンが五なんか云ふ結果が出來ますからネ、先生の御言葉だが、人智の發達だなんて實際は考へものですよ」

博「まあ何でもいゝからやるならやつて御覽よ、乃公の方にも亦相當の覺悟もあり、自信もあるよ」

菌「よろしい、そんならやつて見ませう、それでは御免を蒙ります左樣なら」

第四　病毒河水に入る

（淀川に和船繫留、船頭汚したる衣類を洗ふ病毒水に入て流る）

此處は淀川であります、こゝに繫留して居る船は昨夜神戸港に居つたのであります、此船頭の弟が盛に吐瀉をやりました、そこでマゴ〳〵して人に見付かつては、ヤレ消毒だのヤレ隔離だのと種々の面倒が起るのを恐れて、夜にまぎれ此大阪へ逃げて來たのであります、幸まだ人は知らないからと云ふの

で、不心得にも昨夜以來サン〲に汚れた衣類を洗つて居る、この爲に病毒は河水と共に流れて下流の人に傳はり、更に諸方へ蔓延するのであります、菌王が個人の德義を說いたのは此點であります。

第五　病毒の傳播

唯今の船頭が汚物を洗つた其下流に渡場があります、そこへ西瓜賣が參りました、先づ此處で店を出し河水で西瓜を冷します、「無論目に見えないから恐ろしい病毒が附いてくるのはわからない、さて庖丁を取上げて西瓜を切り、御丁寧にも其上から水を掛けて居ります、すると向ふから荷車を引いた仲仕が來ました、幸こゝに西瓜を賣て居る、暑さ凌ぎに車を停めて西瓜を喰ふ、折柄此處へ通りかゝつた肴屋が取急だ爲めに車の梶棒に行き當る、二言三言の口論のはてが大喧嘩となつて肴は地上へ散亂致します喧嘩は折よく來かゝつた車夫の仲裁で治まつたが、治まらないのは砂にまみれた肴であります、マサカ此儘御得廻りも出來ないと云ふので河岸へ下りて肴を洗ふ、是で又復病毒の問屋が出來たわけになります。

第六　博士と菌王との對話

菌「どうです先生、ソロ〱僕の戰略が成功しかけて來たではありませんか

博「イヤまだ〱左樣は言へない、其處には又それ相當の對抗法がある、貴樣はまだ此世に消毒藥のあることを知らないのか

菌「オットそいつは百も承知の助ですが、あまり太平が續くと武士の魂も錆びますよ、先生の御自慢なさる所謂知識階級もあまりあてにはなりません、況んや其他に於ておやです

博「マ、理窟はとにかく事實を見るとしやう（トいさゝか憂慮の體）

第七　病毒中流社會を襲ふ

玆に二軒の家があります、甲は會社員で表面は中々贅澤ではありますが家事は不取締で、口には衞生衞生とやかましく喋りたてゝも、衣食住萬端下女任せで諸事だらしない家庭であります、乙は左まで敎育あると云ふのではありませんが、元來が綺麗好きで

主婦自ら立つて働くと云ふ風ですから。從て下女も忠實で、萬事に注意が行屆いて居ります。

（其の一）生水、生魚の注意

甲乙兩家の露路へやつて來たのが菌携帶の魚屋であります、ソンナ事とは知らないから下女が出てそれぞれ魚を買ひ調へます、黴菌は甲家へも入込めば乙家へも這入ります、甲家の下女は之を井戸へ冷しますので井戸の中へ菌が這入ることになります、其後から參りましたのは八百屋であります、御得意の甲乙兩家へ青物を納めましたついでに例の井戸水で青物を潤します、そして無意識のうちに他の御得意へ虎菌を擔ぎ込むのでありますが、思へば恐ろしいことではありませんか。

（其の二）注意深き乙家

此處は乙家の座敷であります、時節柄だと云ふので醫師を招いて注射をしてもらひ、猶亦其ついでに豫防上の注意を尋ねます。

醫「イヤ恐しいとは云へ、豫防さへうまく出來て居れば決して心配は入りません、世間では唯無暗に神經を起して恐れるばかしで用心が不充分な人、や又は反對に無暗に空大氣で全く注意しない人もあります、是等は尤も始末にをへない連中であります、用心と申してもツマリは口です、菌は口から這入るのでありますから口へ入れるものを注意する、それは何でも煮れば菌は死ます、然し食物丈では不充分ですから之を入れる器、之を取扱ふ手が綺麗でなければなりません、其手も御自分はもとより女中サンから御出入の商人の手迄も注意が緊要であります

主婦「ソレでは其消毒には如何したら一番手輕で出來易いのでしやうか

醫「さうですネ、先づ衣類などは日光に直射さして乾燥するのですそれから熱氣即ち食物は煮るに限ります、又食器の類も煮てよろしい、次に酸類殊に鹽酸は容易く菌を殺します、それから手の消毒にはシャボンを使つて刷子でよく洗ひ、後二十倍三十倍の石炭酸水とか千倍の昇汞水や又は「アルコール」それから「リゾール」などにつけるのです、殊に注意しなければならないのは生水で、水道ならば先づ安心ですが之も念の爲に煮た方がよろしい、それから蠅を出來る丈撲滅しなければいけません

主婦「ドウも種々御注意下さいまして有難う存じます、それでは御ついでに宅の下女にも注射を御願申ます、コレ／＼松や（下女出る）お前も注射をして戴いたがよろしい、そして御隣へ行て、唯今私の方へ先生が見えまして注射をして戴きましたが、あなた方も御ついでに注射を御受けになつては如何で御座いますかと御伺ひ申して御出で

下女「承知致しました」

感心な主婦は自分一人のみならず、お隣の人々にも注射を勸めて禍を未發に防がうと下女に尋ねさせます、甲家では、主人は昨日會社で濟まされましたさうですから奥さんと御隱居樣とに注射を願ふと云ふ返事であります、甲家の主人は自分丈け注射しても家族のことはかまひつけないのに、乙家の主婦は善い事ならば己一人で止めず出來る丈他にも廣めやうとする心掛、誠に我れ人共に學ぶべきことではありませんか。

サテ醫師は注射を終て歸宅致しますと、主婦は其の敎に從ひ清潔法を行ひます、先第一着として室內の掃除に取りかゝり、それから、先つき買た魚は其儘煮沸致しますから、さしもの「コレラ」菌も釜中に往生を遂げるのであります。

乙家主婦「サー／＼松や、是からは先生の御言葉通り、萬事に注意なしなければいけません、それでかうどこもかしこも明けはなしお日樣がよくさしこむやうにして、隅々に穢いものが殘らないやうに御掃除をおし、それに先生が敷いていらつした御座布團は殊によく干さないといけませんわ

下女「ハイ／＼かしこまりました、ねえ奥樣、かう一生懸命にお掃除を致しましたあとは、せい／＼してほんとうにいゝ氣持になりますね

主婦「ホンにさうだよ、それからさつき買つたお肴はすぐに煮なければいけませんよ、それから其器もよく消毒して、あとでお湯をとほしておくのですよ

下女「承知致しました

主婦「コレ松や、お前手でお魚をつかむのは亂暴だよ、其手はよく消毒をするんですよ、其上でなければ外のものをいぢつてはなりまん

下女「ハイ／＼

（其の三）不取締なる甲家

乙家の勸めによりまして甲家の妻君も注射をうける氣になり、唯今御醫者が見えました、妻君は老母に注射を勸めましたが、元來頑健な人丈に中々承諾致しません。

老婆「お私は前の知つて居る通り、生れてからまだ藥と云ふものを呑んだ事がない、昔「トンコロ」が流行つた時でも、私は人樣のやうにピク／＼せず、何でも好きなものを戴きました、其お陰で疫神もよう寄り附きませなんだ、お前なんか其若さで、二タ言目にはヤレ衛生の、ヤレ黴菌のと、毎日々々ピク／＼もので、藥ッ藥ばかり喰べて居るものだから、いつも幽靈のやうに蒼白い顔をし

て、血の氣と云ふものがなくなつて居ります、だからいつまでたつても子供が出來ない、昔は子なきものは去ると云つて一人前の女とは見認めなかつたものだ、私は一日でも酒がなければ生て居る氣がしません、是で歯があると章魚が喰たいと思つて居る位だよ、コンナ元氣な體に豫防注射も牛痘注射もあつたものじやない、ホントウに馬鹿々々しい

と中々承知致しません、そこで巳むを得ず主婦だけ注射をしてもらひます、

此家の主人は昨日會社で注射をしましたので、モウ大夫丈と其晩早速御宿坊へシケ込んで一夜を飲み明かし、上機嫌の體で歸宅致します、妻君は又かと少少機嫌斜なりと云ふ有様ですが、其中に食事時でありますから其用意に取かゝります、主人は宿醉未だ醒めずと云ふので冷し「ビール」に果物を望み、老母は好物の刺身で「ビール」の御附合です、諸君、此冷す爲めに使用されたる水は先程の井戸……卽ち「コレラ」菌を含んで居る井戸水であります、ヨシ魚は新しくとも「ビール」に異常がなくとも、又は此等のものを口へ入れずとも、此有毒なる水を使用する人々が果して如何に成りませうかそれは、追々に御覧に入れることゝ致します、

（其の四）老母の罹病

善に善報あり、因果は廻ぐる小車の例へに洩れず甲家に於きましては先程家族三人が食卓を共にしました結果として、先第一に頑固なる老母の罹病となります、妻君は若氣のあまり初めはイ、氣味だと云ふ氣がないでもなかつたが、だん／＼病勢が容易ならぬ模樣でありますから、コハ大變と主人が午睡の夢を驚かし、直に醫師を呼び迎へるさ云ふ大騷ぎとなりました。

其中にお醫者が駈けつける、早速診察すると、ドウも之は眞性の「コレラ」らしいから、直に其手續をしなければならぬさ電話で報告に及びます、一方老母は漸々重體に陷り、流石頑丈な老人も之ではならぬさ悟つたがモウ遅い。

老母「ア、苦しい、ドウモ私が聞かぬ氣で我を張り通したのが惡かつた、是ではとてもいけない、ドウも長々とよく世話をしてくれ

ました、いろ〳〵云ひたいがモウ口がきけない、唯後のことを頼みますぞ

仲仕「ア、おッ母さん、どうぞ是迄も不つゝかは御勘辨を願ひますみんな私が不行屆から勿體ないおッ母さんをこんな淺間しい目に御逢せ申しました、どうか御氣を確かに持つて下さい、おッ母サーン

妻君は悔の八千度百千鳥、立ちさはぎ泣き悲めど甲斐もなく、やがて檢疫係をはじめ皆々が參りましてともかく老母は傳染病院へ收容することゝ成りました。

(此間に患者用馬車を寫し出す)

老母を送り出したる夫婦は悔悟と疲勞、悲哀と恐怖に茫然として爲すところを知らずと云ふ有樣でありましたが、其中にアハレ此二人も心中違和を感じて遂に「コレラ」菌の襲ふところとなり、又々老母の後を追て病院へ送られなければならぬ樣になりました、然し幸に此兩人は若くもあり注射を受けて居りますから、生命を失はずに濟みましたが、老母は年と云ひ旁々、無慘にも流行の犧牲となつて斃れましたのは、かへす〴〵も氣の毒なる次第であります。

第八　病毒勞働者一家を襲ふ

(仲仕の宅)

偖話變つて先刻河岸で西瓜を喰べました仲仕は、其結果トウ〳〵發病致しました、家には乳呑兒を抱たる饑た妻が一人居ります、夫婦中は極めて圓滿でありますが、不用意にも有害の西瓜を喰べました爲に、其身ばかりか其妻子にも災を及ぼすと云ふ、誠に悲慘なる次第であります、仲仕は病苦に惱みつゝ己が住家へ歸つて參ります、妻は驚き早速介抱を致しましたが、何分にも其日を辛うじて送つて居る榮養不給の然かも纖弱き女子の身でありますから、どうして猛烈なる此病毒に抵抗することが出來ませうか、哀れや其身も忽ち感染する樣になりました、物音に驅けつけたる隣家の婆さんは、コハ大變と早速醫師へ急報する、夫婦は共に病苦と戰ひながらも互に身の上を案じ、夫は妻の背など擦つて居る處へ急報に

投したるお醫者さんが看護婦車夫と共にやつて參りまして、一目見るより容態の質ならぬを察して注射を施し、一方車夫に命じて届けさすことに致しました、此方は益々病勢がつのつて參り、咽が渇く、水が飲みたいと云ふ、醫師は早速藥を調へ、先づ重症の夫へ飲まさうと致します。

夫「ドーゾ先生、嬶へやつとくなはれ、私はこうえらうては、とても助かりません、せめては彼奴丈でも助かりましたら、御覧の通り乳吞兒もおますよつて、母子二人が助かる道理、私の方はほつといで、ドウゾ嬶を治しやつとくなはれ、お願だす

妻「イエ〳〵先生、それはいけません、内の人に先き立たれて、女子手に乳吞兒を抱へ、とてもやつて行けるものではありません、私はドウなりましても決してかまひませんから、ドーゾ〳〵内の人の助かるやう御手當を願ひ升

と夫婦互にかばひ合ふ有様はあはれとも何とも申様も御座いません、これではならぬとお醫者さんは聲を勵まし。

醫「此場合になつてグズ〳〵して居る奴があるか、どちらからなりと早く飲め、藥は澤山に用意してあるから心配しなくつてよい

と或は叱り或は慰め御手當をして居られます中に、

届出により參られました檢疫吏員は、醫師が眞性「コレラ」であるとの言葉により、早速此夫婦を擔荷に載せて傳染病院へ收容致させます、こゝに哀れを止めたのはかの乳吞兒であります、もとより親子三人暮し、兩親に離れては誰も世話するものがありません、近所の人は「コレラ」と聞いてより付かず、乳がなければ育たないのでありますから、この場合已むを得ず瀕死の母と一所に擔荷に載せて參ります、無心の小兒は母親の最後をも知らず氷の如き冷たき乳房を探して居るのであります。

第九　病院

（患者を收容する狀態並に病室の一部を寫出す）

（其の一）病　室

甲家の主人は豫防注射に安心して暴飲暴食をやりました爲、早速罹病して此病院へ收容せられました、が一時はかなり危篤で昏睡の狀態に陥りました、すると夢ともなく幻ともなく現はれたのが前夜徹宵の

宴をやつた光景であります、嗚呼惡いことをやつたと今更慙汗背にせまり、しみ〴〵と悔悟して居る内、幸ひ醫員看護婦諸君の手厚き治療により一命を取りとめることが出來たのは、實に幸福と云はねばなりませぬ。

（其の二）保養室

行き屆いた設備と看護、又は藥石の力によりまして萬死に一生を得たる甲家主人同夫人仲仕及其子等一同は昨今快方に向ひ、此保養室に集まつて靜養することになりました、そこで各々互に自分が惡かつた處を話し合て居ります。

甲主人　「イヤどうも皆さん、御無事に退院する日が近づいて參りましたのは、誠に喜ばしい次第であります、私は元來注射を餘り信じ過ぎた爲に、飛んでもない事を仕出かしました、今から考へて見れば馬鹿らしい樣です、いくら注射しても養生を怠つてはいけないことは知れきつて居ますが、其時は左樣思はなかつたのですそれと同樣に又家事に無頓着だつた爲、大切な母を失ひ取返しのつかぬ不孝の罪を犯しました

甲主婦　「イヤそれは私がみんな惡いのです、生ま半可な理窟ばかりで萬事が押し通せることと思ひ、實地について注意が行屆かず、下女なんかも叱るばかりで敎へ導くことがなかつた……ではなく實際それが自分に出來なかつた爲、こんな大變なことを仕出かしてしまひ誠に申わけもありません

仲仕　「私共はどーせ何も知らんもんだつさかい仕方がなまへんが、常からよう皆が、衞生の話があるさかい聞きに行かんかと勸めて吳れますのな、我々親子三人が食ふや食はずで暮して居るのに、そんな事もわからん話なんて聞きに行く間があるかい、そんな所へ行く間に働いたらまた嚊に好きなものでも買つてやれると、ほんまにあほーなことしました、苦しい中で互に力になりあうてた嚊は死んでしまい、こんな乳呑兒なかゝへて是からどうなりまつしやろう、マア然し是も因縁だす、どうもこつちがわるいねさかい仕樣がなまへんまだ是でよう父子二人が助かりましたことだす是も院長さん始め皆さんのお蔭だす、ほんまに有難いことでなます

院長　「皆さん、濟んで仕舞つたことは今更致方がありませんから、この後其過ちを再びしない樣に注意し、猶他の人が同樣な過ちをしない樣に皆さんから注意してあげることが必要であります、元來學問の力は萬能でなければならぬのでありますが、之を眞に了解し、之を實行しなければ何にもならぬのであります、それには個人道德はもとより公衆の德義と云ふことが是非必要であります、然し一方には溢るゝ如き情愛があつても、物の道理を辨へなければ、諸君の樣に悲しき運命に遭はなければならないことになりますから、此點に於ても亦よく〳〵御注意あらんことを希望致します

などゝ種々訓戒がありまして院長は退出、一同は益

益感謝の意を表して居ります。

第十　學術の勝利

博士　「オイ菌樣は其後隨分世人を惱ませたが、遂に醫學の進歩の爲に打負かされてしまつたではないか

菌王　「成程先生の御說の通り、昔と比較すれば多少は人間も賢くなりましたが、然しまだ〳〵僕の眼から見れば活動の餘地は充分ありますよ

博士　「どうも菌樣は强情でいけない、左樣云ふことなら手取り早く我輩自身が手を下さゞるを得ない

と云ひながら博士は傍の消毒藥を取て菌王の頭上にふりかけますと、哀むべし魔王はアッと云ふ間もなく消滅してしまいました。どうか斯う云ふ風に、此惡疫が消滅する樣、諸君と共に努力致したいものであります。

救急療法

船井郡敎育研究會第五組合の名を以て、雜誌「京都敎育」に揭載せられたる救急療法は、頗るその要を得たるを覺ゆ、左にその一二を摘錄す。

一二の疼痛及吐瀉の救急法

疼痛或は吐瀉の爲め急死の轉歸をとる場合は少なしと雖、往々卒倒失神等を起す事なきにしもあらず、左に日常遭遇し易きものゝ所置を述べんとす。

（一）頭痛

頭痛は種々の疾病に發する一の病狀なれども、人によりては習癖性なるものあり、兒童の如きは少しく身體に違和あるや、直ちに頭痛を訴ふる事多しとす、最も著明なるは腦病にして頭部の充血腦の過勞等にも發し、種々の熱性病、感冒中毒、耳眼鼻疾、胃腸障碍、便祕等にも來る、特に兒童は胃腸の異常、寄生蟲（蛔蟲等）疲勞等に之を訴ふる事多しとす、結核性腦膜炎の前兆として來るものは、頗る頑固にして兒童に好發の症なれば注意を要すべきものとす、其他室內換氣の不充分によりても又頭痛を發することは屢々實驗さるゝ所なるべし。

（處置）　多くの頭痛に對しては、頭部の冷罨法を

施すを例とす、然れども一側に發する偏頭痛の如きは寧ろ温罨法を施して輕快することあり、其他頭に薄荷水を塗り、充血性のものには顳顬部に數匹の水蛭を貼するもよしとす、古來頭痛に鉢卷は妙法たり、俗間頭痛に、梅干の貼用は幾分暗示の效あるべし。

(二)腹痛

通常腹痛と云ふも各疾病によりて痛の場所及性質を異にするものとす、即ち胃痛（胃加答兒、胃癌、胃潰瘍等）は心窩部に起り、盲腸炎は臍の右下部に腸疝痛は中央及下腹に、腹膜炎は全腹面に發するものとす、腸の捻轉及閉塞は劇烈なる痛を來し、兒童の蛔蟲は臍圍に鈍痛を訴ふるを常とす。

(處置)　吐血、下血及熱等の一を伴ふ、腹痛は痛部の冷、或は氷罨法を施し、其他は温罨法を良とす、兒童の輕き腹痛には胃散に「セメンエン」を混じて與ふるの他醫療を待つべし。

附　罨法の種類及方法

温罨法とは、患所を温むる方法にして、之れに濕性温罨法と乾性温罨法の二種あり、即ち温湯及温藥汁を布片に浸し、或は煮たる蒟蒻又は粥を布片に包みて用ふるが如きは甲に屬し、温石、懷爐、燒瓦、炙りたる糠、或は湯「タンポ」等を用ふるは乙に屬するものとす。

冷罨法とは病所を冷却する方法にして、前者の全く反對の方法なり、之れに冷水罨法及氷罨法の二あり、甲は冷水を布片に浸し、或は袋に充し用ふるもの乙は雪、或は氷を指頭大に碎き氷嚢に入れ用ふるものとす。

以上温冷兩罨法共に其度を失するときは、或は火傷を起し、或は凍傷に陷らしむるの恐あるを以て注意すべきものとす。

(三)嘔吐

嘔吐とは、胃の内容物を口腔外に吐出する事を云ふ、過飲、過食、胃病、蛔蟲、腦病の初、妊娠、卒倒、便秘、船暈等に發する事多く、中毒の際に起る嘔吐は、自然の療法なれば寧ろ多量の水を與へて、更ら

に吐出せしむ、然りと雖、其他の嘔吐に對しては制止せざるべからず、之れには通常胃部の冰罨法を行ひ絶食靜臥せしむ、甚しきものに向つては芥子泥とて粉末芥子を水に練り十分間胃部に貼し、時々冰の小片を嚥下(まるのみ)せしめ、或は心氣を可成他に轉せしむる等は最も妙法なりとす。

失神者嘔吐を發するときは、間々氣道に逆流して窒息を起すの恐あるを以て、かゝる場合は速かに顏面を横向けとし、自然に口外に吐出し盡す如く之を介助する事を要す、其他凡て吐物の檢査は治療上參考となるべければ醫師の來る迄殘し置くを便とす。

(四)下痢

糞便液性を増し、度數頻繁となるを下痢と云ふ、急性の水樣下痢は全身の水分を脱却し、衰弱に陷らしむる事過急なれば屢々腦貧血の爲め途中に倒れ、或は下肢の痙攣、四肢厥冷を伴ひ忽ちにして危篤に陷る事あり、即ち夏日の急性胃腸炎「カクラン」「コレラ」病等は其甚しきものなり、假へ下痢の回數多くとも少量宛の粘液便を排出するが如きは慢性疾患にして救急の要あらざるべし。

(處置)　靜臥腹部の温罨法を施し、渇に對し茶を與へ、傍ら興奮劑を投じて醫師を待つべし、腹痛を伴ふ下痢よりは痛なき下痢却て恐るべし。

無痛分娩

お産をするときには隨分疼痛を忍ばなければならぬ。これは古今東西如何なる婦人と雖、同樣である。而してこの地球上人在つて以來幾百萬年の間に幾百千萬の婦人が幾億の人を生むだか知れぬが、正規の分娩には孰れもこの疼痛に堪へて來たのである。而してこれは實に如何とも致し方のない苦痛で、婦人は皆この大役を承知して居る。男子から見れば眞に氣の毒なやうであるが、これには又非常に廣い關係を深い意味があることゝ想像される。

然るに近來歐羅巴諸國では往々無痛分娩と云ふこと

が行はれて來た、即ち疼痛を覺えずに分娩さす方法である。これは「スコポラミン」と云ふやうな疼痛の感覺を痲痺させる藥、勿論毒藥であるが、斯樣なものを注射して疼痛無しにお産をさせるのである。實際成功して居る。

これを聞いたならば、誰でも無痛分娩を希望するに相違なからうと思ふが、さてそれが果して害が無いか何うかと云ふことが問題である。

西洋の小供の讀本に、或時一人の小僧が椎の大木の下に休むで居つた、さうすると、その足下に非常に大きな南瓜が見事になつて居る、又上を仰ぐと椎には小さな實が澤山なつて居る、そこで小僧さんの考へるのには、どうも神樣は不釣合な事をなさるものだ、若し私が神樣であつたならば、大きな椎には當然大きな南瓜をならせ、つまらぬ南瓜の蔓にはけちな椎實をつけてやる、と云ふやいなや上の方から椎の實が一粒落ちて來て鼻に當つた、そこで小僧さん大に驚いて、若しこれが南瓜であつたならどうであらう、さて〳〵神樣は流石に智惠があると感歎したと云ふやうな話が書いてあるが、實際利口氣た人工的の仕事は一寸見ると如何にも尤もらしいが、少しやつて見ると忽ち其不都合が現はれて來ることが多い、この無痛分娩法なども恐らく萬人の希望する所に相違ないが、それを試みられてから、いまだ尚日淺く歐羅巴に於ても一般に應用されて居る譯ではない、それでこれから段々流行していくならば恐らく案外の點に不都合な事が生じて來て、到底一般普通に行ふべき方法ではないと云ふ事の證明される時が來るであらうと思はれる。

元來無痛分娩法などが特別の必要もないのに、たゞ少しでも苦痛を免れやうと云ふ考へから、濫用されかけて來る氣味があるのは、一般に西洋の女がよく云へば自分の權利を主張する觀念が發達して居ると云はうか、わるく云へば我まゝで自分さへよければ子供などはどうでもよいと云ふやうな傾があり、又痛いとか痒いとか云ふ事に就ては更に恥もがまんも

ない、それで獨逸では、産婦の事を「クライセンデ」と云ふが、つまり叫ぶ者と云ふやうな意味の言葉で、實際西洋の女はお産の時にはひどく泣きさはぐのである、そこにいくと、我が神州の御婦人方は昔から兒を生むは婦人の任務である、この任務をつくすには多少の苦痛は當然の事であつて、祖先代々、我々は斯の如くにして生れ、自分も亦斯くの如くにして母親が生んで來れたことを思ふて、これをしも堪へることをせずに、泣いたり叫けんだり見苦るしき態度をするのは恥であると心得て居る、そして實際これを堪へる事が自分の爲にも、小兒の爲にも決して害はない、寧ろ直接、間接に多少效のある事である。それであるから、やがて無痛分娩法が我邦にも輸入され、流行する事があるとしても、それは或る特別な場合に醫師が應用する所の一種の治療的手段であつて、決して健康なる婦人が正規の分娩に當つて自から要求すべきものではないと云ふ事を承知して居なければ、恐らく日本婦人の爲に惡結果を齎らすであらうと思はれる。

「コレラ」菌の强さ

「コレラ」病の猛烈なることは誰知らぬものもないが、それは、適當の條件の下に人間の腸内に侵入して、其處で繁殖し、毒物を作つて病氣を起した時のことである。併し人體の外に於て種々の場所、種々の物の中に於ては案外弱いものである。此邊の事情を心得て居つて、妄りに畏れず、攝生に注意することが肝要である。外界に在て「コレラ」菌の强さは何なものであらう、學者の調査した所によれば略ぼ次のやうに言はれて居る。

第一、日光に當るか乾燥けば數分乃至數十分の内に死ぬ。

第二、酢に對して非常に弱い、一萬倍の薄い鹽酸で數秒間に死ぬ。

第三、消毒藥に對して大變弱い、三百萬倍の薄い昇

汞でも十分間以内に死ぬ。

尚ほ水及び種々の飲食物等の中に生活して居る時間は大約左の如しと云ふ。

海水中では	四週間
河水、池水では	數週間
暗渠の中では	一日半
糞便中では	普通二週間以内
蒸餾水の中では	一日間
生牛乳の中では	二日間
ビールの中では	三日間
赤酒の中では	十五分間
氷の中では	四日間
薄茶の中では	八日間
濃茶の中では	一時間
咖啡の中では	二時間
酢の中では	一時間以内
糠味噌の中では	二時間以内

但しこれはその「コレラ」菌の性質、多少又溫度其他の條件に依て非常の差があるから、單にこれに依て、「コレラ」菌の入つた疑のある赤酒でも、十五分間經たから、まう飲むでも大丈夫だと云ふやうな調子に應用されては困る。今試みに「コレラ」保菌者、即ち實際體内に「コレラ」菌を有て居りながら、病狀を發せぬ者の糞便を極く少量、一匁の二千分の一ほどを各種の食物に混じ、又は塗布して二十度乃至三十二度の室溫に置き、その「コレラ」菌の生存期限を調査した成績を見ると左の如くである。

味噌汁(甘味噌辛味噌等分芋あり)	三十時間
吸物汁(魚肉、柚子一片ユバ一片を含む)	五十五時間
澤庵斷面	二時間
バタ(一品洋食屋の下等品)	五十五時間
食パン(同右)	三十時間
うま煮里芋	三十時間
廣島菜(脊菜の葉の裏面)	三十時間
海老天プラ	七日間
蛤のつくだ煮	二時間

鰻かば燒　六日間
玉子燒(仕出し屋にて作りたるもの)　五日間
飯(少しく硬加減に炊きたるもの)　五日間
ほうぼう煮魚　三十時間
鰹三杯酢(大根おろしを含む)　六時間
奴豆腐　五十五時間
番茶　十日間

此等の結果に鑑みれば、如何に「コレラ」菌の恐るべきものであるが、又注意さへすれば、如何に恐るゝに足らぬものであるかゞ解からうと思ふ。



雜報

○リデル嬢に御下賜金

去る二十五日　皇后陛下には、特別の御思召を以て、熊本回春院長リデル嬢に對し金六千圓御下賜の御沙汰あらせられたり。同嬢は明治二十四年我國に來朝し、二十七八年の頃、熊本市外髙日山本妙寺境内に癩病者の悲慘なる有樣を目擊し、憐愍の情禁じ難く、遂にこれを救濟せんとの決心を以て居を熊本市に定め、友人知己の援助を得て回春院を設立し、今日に至るまで二十餘年間犧牲獻身の働を續けつゝあり、然れば明治三十九年には事天聽に達して藍綬章を賜はり、政府よりは年金三百圓宛の補助を與へらるゝに至れるも、莫大の經常費を要し、殊に歐洲戰亂後は外國よりの義金絕え、維持困難を覺ゆるより、去月義金募集の目的を以て上京せるに際し、今回の有難き御沙汰に接したるものとす。吾人は外國人たる同嬢が、我が同胞の爲に斯の如き犧牲獻身の業に從事せらるゝことを深く感謝すると共に自ら忸怩たるの感なき能はざるものなり。

○女流水泳家

最近米國桑港に於て行はれたる。國際的大水泳會に於て驚くべき記錄が出來上つた。それは全國フィラ

デルフイア洲の女流水泳家たるオルガ・ドーフナーと云ふまだうら若き少女が、遠く本場の布哇から必勝を期して來たバーナイス・レーン孃や、呼聲高かりし桑港選出のエーベル・ダレー孃などを美事に打破つて、百碼を一分八秒で泳ぎ切り、全國に於ける女流水泳家の記錄を打破つた事である、同孃は昨年シュルキールの河水泳に於て、同距離を一分九秒五分の三で泳ぎ、一躍して大名を馳せた天才であるが、今回は愈記錄破りの好成績を得て萬丈の氣焰を擧げたのである。

○鷄卵中の黴菌

米國の統計局の調査せる所によれば、米國民は一年平均一人につき二百十一箇、即ち一週平均四箇の鷄卵を食し、その總額六億圓に達す。而して從來卵の内部は全く無菌なるが如く思惟され居たるが、今回新鮮なる鷄卵三千四百箇を檢査したるに、其八パーセントは黄卵中に細菌を發見したり。されど卵蛋白質中には之を發見せざりき、又一羽の鷄が一ヶ年中に産卵する有菌卵の数は一・八乃至十五箇平均九箇九にして、如何なる鷄と雖も、一箇年中は全く無菌なる卵のみを産むことゝなし、尚卵中に侵入せる菌の種類は四十種以上に及び侵入の經路は細菌が鷄の腸壁より血管を經て卵巢に入りしものなり。

○英軍慰問資金募集

東京朝日新聞社にては左の規定により英軍慰問資金を募集すと。

▲慰問義金は一口金一圓とす、一人にて數口を負擔せらるゝは妨げなけれど數人にて一口を持たるゝは謝絶す▲義捐者は口數、住所、氏名を明記し金員を添へて申込まれたし、住所、氏名の讀み惡きもの紛れ易きものは特に假名を附せられたし婦人の方の御申込には成るべくミス（未婚）ミセス（既婚）の區別を附記せられたし▲義金に對する領收書は別に差上げず、新聞紙上の發表を以て之を代ふ▲資金の費途は之を英國皇帝陛下の總裁せらるゝ在倫敦海外倶樂部に託し義捐者諸君の名に於て新年慰問として戰地の

將士に煙草を送呈するものとす▲海外倶樂部にては義金一口に對し芳名住所を記入せる端書一葉づゝを右煙草と同封配送すべければ自然戰線の將士より感謝狀戰地の模樣、或は他の通信文が御手許に到達すべし、但し何分戰地の事なれば例外の場合ある事は豫め御諒承ありたし▲〆切は十一月二十五日限。

○人種改善法案

米國イリノイス州にては、優良なる種族の增殖を圖り、劣弱なる國民を絕滅せしむる目的を以て、種族改善學の理論を實際上に應用すべく、同州上院議員グランツキン氏公爵ズツツカート氏等は目下之が法令起草中なるが、同法は結婚すべき男女雙方の體格並に智力を官憲の手にて調査し、不合格者には結婚を許さゞるものなりと。

○殺鼠劑の配布

鼠疫四日市に發生して更に名古屋に侵入し、有菌鼠續々發見さるゝ今日萬一東京市内に發生するに至らば由々敷大事なりとて、虎疫に苦き經驗を嘗めたる警視廳市役所にては協議の結果、今に於て豫防法を講ずるに決し、十六日より五日間戶々に殺鼠劑を配布する事となれり、劑は三十六萬個、巡査一人に人夫一名を一組と爲して、總て一千二百五組、一日の配布戶數三百戶、一戶に對して十個、これを臺所、床下等に撒布し、小兒等が過つて、その殺鼠劑を食したる場合を慮り、解毒劑を警察若しくは派出所に備へ置き、屆出次第下附する事と爲せり。

○古新聞紙の活用

米國セントルイ結核豫防協會にては、讀み古しの新聞紙を市民より寄贈せしめ、これを賣却して療養院の維持費に充てんとの計畫にて、最近約六個月に一百萬封度を集め得たりと云ふ。

○米國最初の婦人議員

米國のジヤチツト、ランキン女史は今回同國モンタナ洲より合衆國下院議員に選出されたり、女史は年三十五、モンタナ州立大學卒業、人格高潔にして知人より尊敬され居れり、米國に於いて婦人議員の選

出されたる嚆矢なれば一般の注意を引つゝありき。

廣告

○私立大日本婦人衛生會例會

同會十一月例會は去十一日午後一時半より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校講堂に於て戊申婦人倶樂部と聯合の上開會醫學博士稻葉良太郎氏の「日本國の發展に對する婦人の責務」及び文學士内ケ崎作三郎氏の「歐洲戰亂と婦人の將來」の講演あり、次に餘興として永田錦心氏の琵琶等ありたり、當日の出席役員は左の如くなりき。

濱尾作子	鳩山春子	長谷川仲子
天野多喜子	守屋千代子	岡田德子
高木鍒子	田村淸子	三浦敎子
吉岡彌生	丹波貞子	近藤憲子
宮本樂子	土肥多越子	

○私立大日本婦人衛生會事務所移轉

麹町區富士見町二丁目三十二番地の同事務所は本月より本郷區駒込林町二番地に移轉せり、尚ほ今日迄忠實熱心に本會の事務を執られたる藤村晴子女史は都合上辭職せられ、中野治子氏その後を繼がるゝことゝなれり。

○轉居

赤坂區より栃木縣鹽谷郡阿久津村大字[illegible]へ	野中のぶ子
赤坂區より麹町區永田町内閣官舍へ	下條美譽子
麹町區より赤坂區新坂町四七へ	重松千代子
麻布區より麻布區材木町一〇へ	松平すま子
右　同	松平芳子
牛込區より牛込區市ケ谷三ノ廿一へ	鳥山たつ子
麻布區より目黑三田二九五へ	富永わき子
芝區より麻布區富士見町四十三へ	矢野ふみ子
吳市より赤坂區檜坂町三へ	福地衣子

以上

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子　　同　長谷川仲子
同　岡田德子　　同　高木鐐子
同　山本多穂子　　同　三浦敎子
同　松平芳子
評議員　入澤常子　　同　羽田三緒子
同　濱田捨子　　同　服部繁子
同　仁禮壽賀子　　同　西外子
同　土肥多越子　　同　緒方悦子
同　岡山とし子　　同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子　　同　片山龜子
同　吉岡彌生子　　同　丹波貞子
同　高橋孝子　　同　田村きよ子
同　武田貞子　　同　鵜原誠子
同　男爵夫人　南部隈子　　同　中濱芳子
同　山口貞子　　同　子爵夫人　松井正子
同　古市幸子　　同　小松いさ子
同　近藤憲子　　同　伯爵夫人　阿部篤子
同　天野多喜子　　同　岸澄子
同　菊池米子　　同　三宅藤子
同　宮本樂子　　同　宮下咲子
同　守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一册　定價金貳拾錢　郵稅壹錢
三册（三ヶ月分）　前金郵稅共　金四拾五錢
十二册（一ヶ年分）　前金郵稅共　金壹圓八拾錢

廣告料

一頁　六十二行　一行二十三字
壹頁　金五圓　半頁　金貳圓五拾錢
○特別廣告　壹頁金拾圓　半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正五年十一月二十二日印刷
大正五年十一月二十五日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地　莊司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　櫻井新三郎
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市本郷區駒込林町二番地　私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鍋屋町　良明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

婦人衛生雜誌第三百二十四號（大正五年十一月十日發行）明治四十三年十二月一日〔毎月一回〕